

文学部

文学部生の

リアルな！学生生活

vol.20



文学部生のリアルな学生生活の様子を掲載し、ご父母の皆さまに文学部生の充実したキャンパスライフの風景、また文学部ならではの取り組み等の情報を発信いたします。

5

はじめに

私が所属する社会学専攻では、幅広いジャンルのテーマから社会を理解できる環境が整っています。1年次には、社会学の基礎である社会学概論、社会学史、社会調査法といった社会調査と社会学理論を学びます。2年次には、実際にフィールドに立って調査を实践する実習で、社会調査を行います。フィールドワーク調査、聞き取り調査、アンケート調査、ドキュメント分析調査など、さまざまな調査手法を体験しながら学習します。私はこの調査実習を通して、自分が何に興味があるのかを再確認することができたと思っています。3年次からは、各自が興味を持つテーマを扱うゼミを選択することになるのですが、私は地域社会学を主に



ゼミで対象地をフィールドワークする様子

扱うゼミを選択し、現在、新原道信先生のゼミで学んでいます。

社会学から得た気づき

私は、中学・高校時代に上りの満員電車に乗って通学していたため、大学では下り電車で通学できる静かなところで学びたいと考え、中央大学を選びました。そして、高校生のときに現代社会の授業を通してさまざまな社会問題に興味を持ったため、これらの問題を幅広く学べる社会学専攻に入学しました。社会学という学問にふれたことで「さまざまなことに興味をもつこと」の大切さを再認識するとともに、「興



Cスクエアで自習する筆者

現場に足を運ぶことの大切さ

嵯峨 蓮

文学部人文社会科学社会学専攻 4年
私立明星学園高校(東京都)出身

味をもつたことを実際の現場に行つて学ぶ」「そしてさらに興味をもつこと」の大切さも学びました。

2年次には、学生の疑問から問いを作つて調査を行う「社会調査実習」で、実際に調査を経験しました。この経験を通して、自分が抱いた疑問から実際に行動することの重要性を感じ、大学では「現場に行つて学ぶこと」をモットーに、さまざまなことに取り組みました。たとえば、高校時代にタイへ短期留学した際に感じた疑問から、所属するボランティアサークルではタイの貧困地域を訪ねました。また、山村留学する子どもたちのドラマを見たこと

から、NPOの島おこしボランティアとして人口70人の離島で1週間過ごしました。さらに、全国の大学生が集まり「マイノリティへの差別」をテーマに話し合うプログラムに参加したことは、今取り組んでいる卒論のテーマに大きく影響を与えています。

また、このモットーをもとにゼミも選びました。現在所属するゼミでは、課外活動として大学近辺の団地の自治会に関わらせていただき、夏祭りなどのイベントのお手伝いをしています。実際に地域の方々と関わる活動を行っていることが、このゼミを志望した動機の一つでした。2年次の社会調査実習とは異なり、1〜2回といった短期ではなく、長い期間をかけて地域や人々と関わるができるのがこの活動のおもしろさだと思います。また、中

学・高校時代は教科書をもとに先生から一方的に教えられる授業が大半でしたが、大学は自由に学ぶ場であるため、こうした地域で活躍する人たちと実際に関わるゼミでの活動は、自分から得る学びの多い時間だと思えます。



団地の自治会が開催する夏祭りにて

一人の調査者として

社会学専攻の大半のゼミでは、3年次にゼミ論文、4年次に卒業論文を執筆します。私も同じく3年次にゼミ論文を執筆し、今は卒業論文に取り組んでいます。ゼミ論文では、先述した離島ボランティアに参加した際、山村留学生（島外から移住し、島の学校に通う小・中学生）や住民から聞いた話をもとに問いを作り、ボランティアでお世話になった住民の方に聞き取り調査を行いました。論文としてはうまく執筆できなかったことが反省点でしたが、小学生のころからの興味をもとに現場へ赴き、そこから得た疑問から問いを作って調査を行ったことは、自分

にとつて深い学びにつながったと思います。

卒業論文は、「マイノリティへの差別」をテーマに話し合うプログラムに参加したときに得た理解や気づきから、「多文化共生」をテーマに執筆する予定で進めています。また現在、プログラム参加の際に伺った川崎市のふれあい館という日本人と韓国・朝鮮人を主とする在日外国人が交流する施設で、中学生の学習支援を行っています。

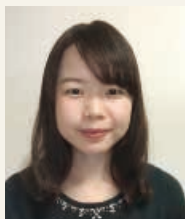
この支援活動から得た気づきも研究に活かしながら執筆を進めたいと考えています。

このように中央大学で社会学に出会った私は、学ぶことを通じて興味が広がり、自分から学ぶという能動的な姿勢をもつことができたと思います。今後もこの姿勢を忘れずに、一調査者として、何かしらの形で地域や社会、世界の問題に関わり、考えていきたいです。



ボランティアで訪れた鹿児島市三島村竹島

グローバル・スタディーズ



文学部事務室
はしもと もえ
橋本 萌

From the Faculty of Letters



文学部
だより

2018年7月1日付で、文学部事務室に配属になりました橋本萌と申します。ご子女の学生生活がより充実したものとなりますよう、精一杯サポートさせていただきます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

さて、本稿が発行されるころは、2018年度も終わりに近づいている時期です。ご子女の皆さんは、部活、サークル、アルバイト、ボランティア活動など、何かに打ち込むことはできたでしょうか。あつという間に過ぎていく4年間という日々を後悔しないためにも、私がぜひご子女の皆さんに参加していただきたいプログラムをここで一つご紹介いたします。

それは文学部で開講している「グ

ローバル・スタディーズ」です。アメリカや韓国などのさまざまな国を訪

問し、現地の文化、自然、教育、産業などに触れ合いながら、グローバル社会を生き抜くための重要な視点を学びます。このプログラムは地球規模で活躍できる人材の育成、およびコミュニケーション能力の向上につながり、今後の人生に不可欠な資質・能力を身につけることができます。教員とともに参加するため、初めて海外へ行く学生も安心して参加することが可能です。また、参加後には海外へ行くことに対するハードルも低くなるため、今後自分がどんなことを学んでいきたいか、取り組んでいきたいかを知るキッカケになるかもしれません。さらに、2018年度からは国内型のプログラムも開

講し、海外に行かなくてもグローバルな視点を学ぶことができるようになります。

今回ご紹介したプログラムのほかにも、中央大学ではさまざまなプログラムを用意しております。具体的に何がしたいということはないが、何かに取り組んでみたいという場合は、Opusや掲示板での情報収集のほか、文学部事務室にぜひ問い合わせしてみてください。

文学部グローバル・スタディーズ
大学公式Webサイト

<http://www.chuo-u.ac.jp/academics/faculties/letters/guide/program/global-studies/>

